

第1学期終業式式辞

皆さん、こんばんは。4月10日に始まった1学期も、今日でおしまいです。明日から、皆さんが待ちかねた夏休みがスタートします。8月29日の始業式まで、しばらく会えませんが、有意義な時間を過ごしてください。

さて、今日は、皆さんが友達などと交わす挨拶について話をしたいと思います。冒頭で私が、「皆さん、こんばんは」と言いました。これは、夕方に使われる挨拶の一つです。

ちなみに、挨拶という言葉は、中国から入ってきたものであり、元来、禅宗の僧侶が受け答えをする意味として使われていました。それがのちに民間にも広まり、「人に会ったり別れたりするとき、儀礼的に取り交わす言葉や動作」として使われるようになりました。

現在では、互いの人間関係を円滑にするため、様々な地域や国で挨拶が交わされています。皆さんも、朝起きたら、家族と「おはよう」という挨拶を交わすと思います。そして、学校に登校してきたら、「こんばんは」とか「やあ」とかクラスメートに言うのではないのでしょうか。

いま私が紹介しているのは言葉による挨拶ですが、これ

以外にも身体の一部を使った挨拶もあります。たとえば、終業式が始まるときに、「一同、礼」という号令がかかりました。その掛け声を聞いて、会場にいる全員が頭を下げました。これも挨拶の一種です。儀式や式典においては、こういった儀礼的な挨拶が行われます。

また、親しみを現すために、「やあ、元気かい」と言いながら相手の肩をたたいたり、握手をしたりします。これは、言葉と動作が同時に行われる挨拶です。

挨拶は世界中のいたるところで行われていますが、そのやり方や意味合いは異なります。たとえば、私の大学時代に、次のようなことがありました。山口県出身の友達の下宿に遊びに行き、夕方になったので、私が、「そしたら、帰ってこうわい」と言って自分の下宿に戻りました。

後日、その友達に会った時に、「君が「帰ってこうわい」と言ったから、また戻ってくると思って待っていたのに」と苦言を呈されました。それに対し、私は「松山で、「帰ってこうわい」は帰宅するという意味で使う」と説明しました。友達は、あきれ顔で「山口では、そういう言い方はしない」と言いました。

その時、同じ日本人でも、挨拶の意味合いや捉え方は異なるということを認識しました。日本人同士でもこういったことが起こるわけですから、他の地域や国の人との間で

はもっと相違点が見られることでしょう。

話は変わりますが、5月に開催されたG7広島サミットには、多くの国の首脳と関係者が出席していました。その様子をテレビで見ていると、各国首脳が挨拶を交わす際に、言葉だけでなく、握手をする様子が映し出されていました。

日本では、言葉以外の挨拶としては、互いにお辞儀をするのが一般的です。しかし、世界的にみると、握手をする地域や国が多いようです。また、相手への親愛の情を示すために、ハグ（抱擁）する地域もあります。しかし、日本人にとっては、握手もハグも、普段からし慣れていないので、なんか気恥ずかしい感じがします。

このように、挨拶一つとっても、場所によって差異がみられます。そのため、相互の人間関係を築いていくためには、そういった違いを認め合うことから始める必要があります。そして、挨拶を通して互いの絆を深めていく。

「おはよう、こんにちは、さよなら」といった挨拶が互いの距離を縮め、豊かな人間関係を築きます。当たり前のことを当たり前にする。それを継続していくことが大切です。皆さんも、今一度、挨拶の大切さを再認識し、自分から相手に声をかけましょう。

以上で私の話を終わります。